

武蔵野市ひとり親家庭アンケート調査報告書《概要版》

◎ 調査の目的

本調査は、第五次子どもプラン武蔵野(平成 32(2020)年度～36(2024)年度)の中に位置付けられる「ひとり親家庭自立支援計画」の策定にあたり、必要な支援の方向性等を検討するため、ひとり親家庭の生活状況や要望等の基礎資料を得ることを目的として実施した。

◎ 調査対象

武蔵野市に在住し、児童育成手当を受給するひとり親全員

◎ 調査期間 平成 30 年8月1日～8月 17 日

◎ 配布数・有効回収 配布数 657 人、有効回収数 279 人(回収率 42.5%)

武蔵野市ひとり親家庭アンケート調査報告書《概要版》

1 回答者のプロフィール

◎ 性別 「女性」が 97.5%、「男性」が 1.8%

◎ 年齢 40 歳代が 51.6%と半数以上を占めている。「29 歳以下」は 3.6%と少ない。⇒グラフ①

◎ 家族構成 「自分と子どもだけ」が 74.6%と多数を占める。「自分の父母との同居」は 21.9%。また、子どもの人数は、「1 人」が 58.4%、「2 人」が 29.0%となっている。

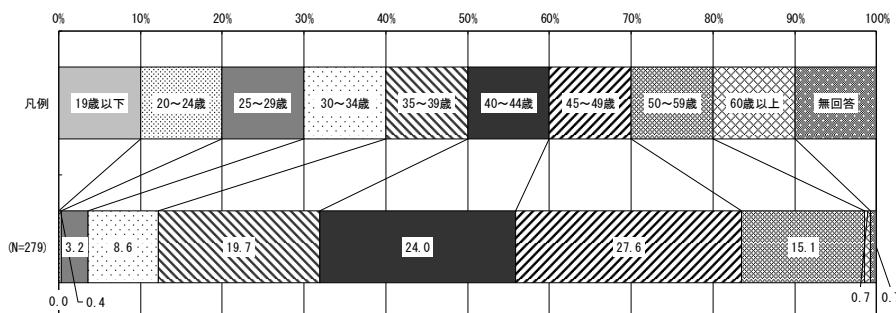
子どもの年齢は、10～14 歳が 32.2%と最も多い。⇒グラフ②

子どもの通学・就職状況は小学校が 29.1%、中学校・高校が 21%でほぼ同数。⇒グラフ③

◎ ひとり親になった事情・年齢等 ひとり親になった事情は、「配偶者と離別」が 77.4%と多数を占めている。ひとり親になった時の年齢は、30 歳代が 47.6%とほぼ半数を占めている。

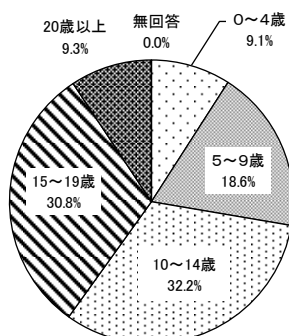
◎ 武蔵野市での居住年数 「5～10 年未満」が 22.9%と最も多く、次いで「10～15 年未満」が 18.3%、「20 年以上」が 16.1%となっている。

グラフ①【アンケート回答者の年齢】



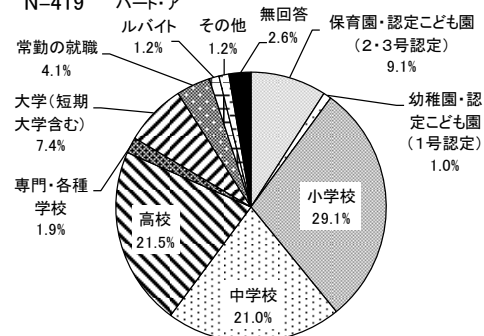
グラフ②【子どもの年齢】

N=419



グラフ③【子どもの通学・就職状況】

N=419

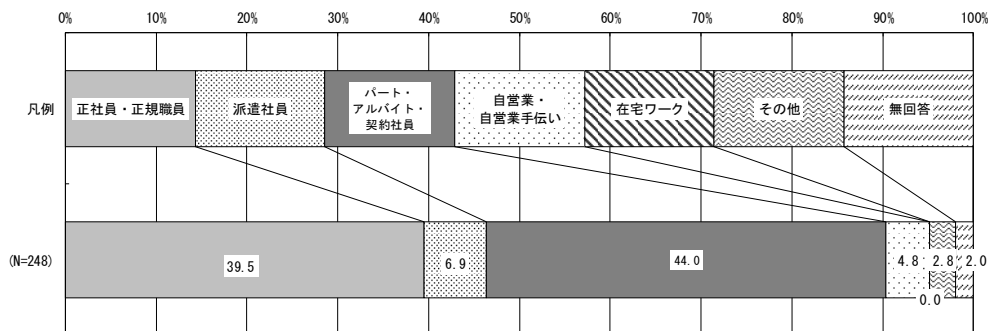


2

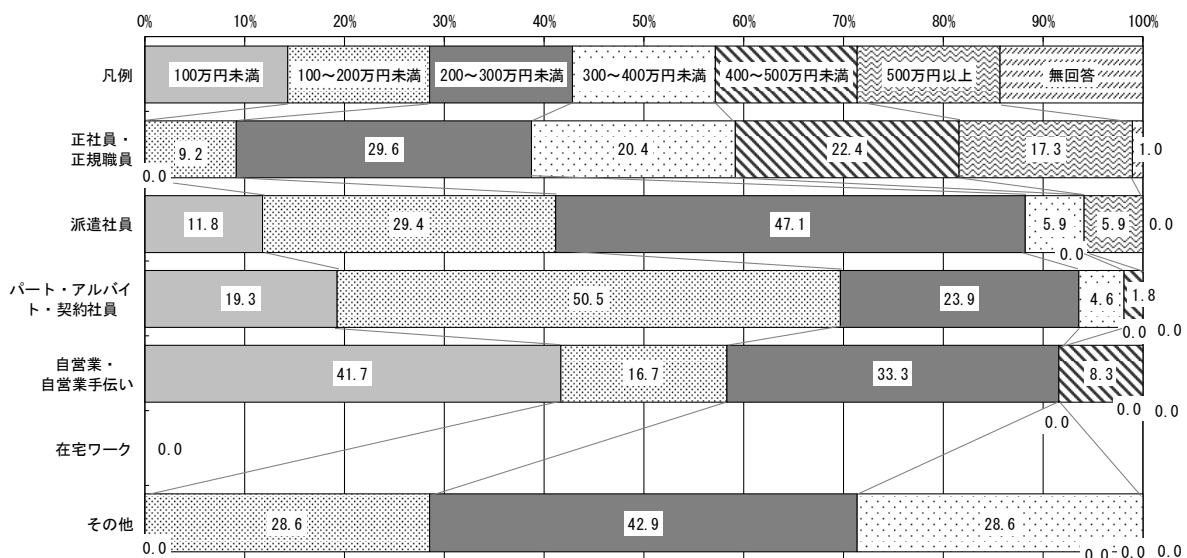
就労の状況

- ◎ **ひとり親になったときの就労状況** 「仕事をしていた」人が 58.1%、「仕事をしていなかった」人が 41.2%となっている。
- ◎ **現在の就労状況** 現在「仕事をしている」人は 88.9%と多数を占めている。1週間の勤務日数は、「5日」が 69.0%と最も多く、次いで「6日」が 14.9%、「4日」が 7.3%となっている。1週間の総勤務時間数は、「36～40 時間」が 34.7%で最も多く、次いで「25 時間以下」が 20.6%、「41～45 時間」が 11.7%となっている。
- ◎ **帰宅時間** 「午後6時～午後8時より前」が 48.4%、次いで「午後6時以前」が 37.1%となっている。
- ◎ **就業形態** 仕事をしている人の就業形態は、上位から「パート・アルバイト・契約社員」が 44.0%、「正社員・正規職員」は 39.5%、「派遣社員」は 6.9%となっている。⇒グラフ④
- ◎ **就労収入** 年間の就労収入は、「100～200 万円未満」(29.4%)と「200～300 万円未満」(29.0%)が 3割弱と多くなっている。
就業形態別就労収入 ⇒グラフ⑤
- ◎ **ひとり親になった時の求職活動における問題点** 「すでに仕事をしていた」(41.5%)が最も多く、次いで「希望する条件に合う仕事が無かった」(30.2%)、「求職活動中の子どもの保育で困った」「子どもの年齢が低いことを問題視された」(19.8%)となっている。

グラフ④【就業形態】



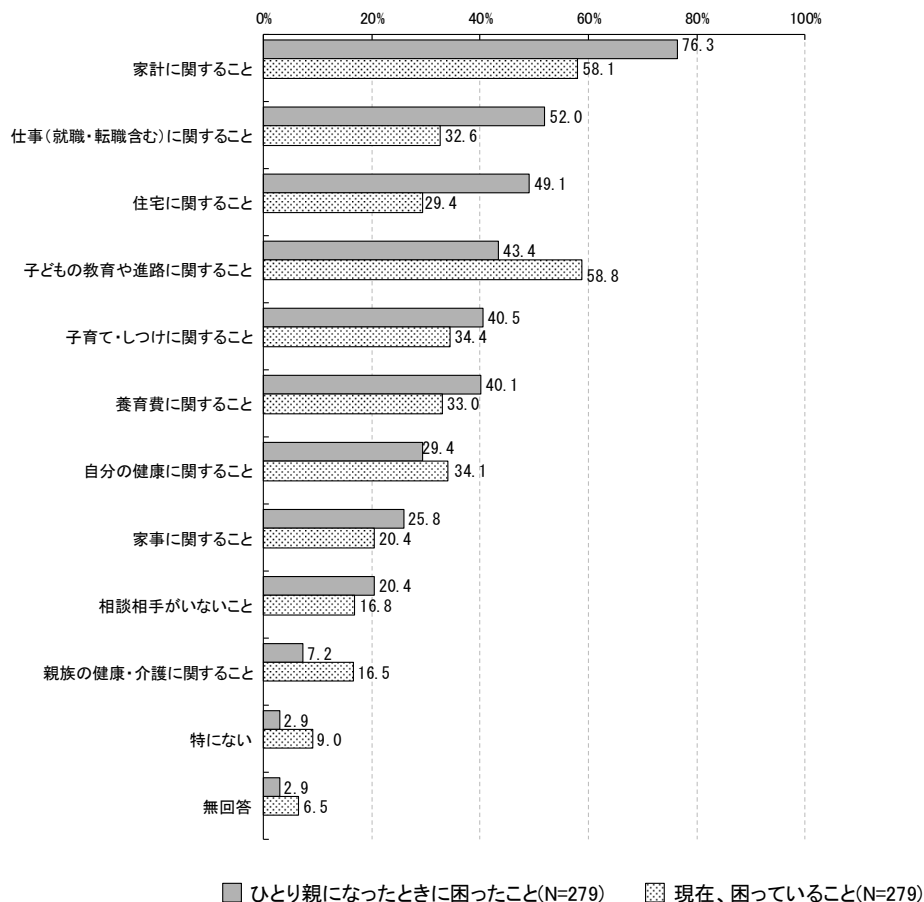
グラフ⑤【就業形態別就労収入】



3 生活について

- ◎ **ひとり親になった時に困ったことと現在困っていること** ひとり親になったときに困ったことは、「家計に関すること」(76.3%)「仕事に関すること」(52.0%)「住宅に関すること」(49.1%)が多い。現在困っていることは、「子どもの教育や進路に関すること」(58.8%)「家計に関すること」(58.1%)が5割を超えて多くなっている。 ⇒グラフ⑥
- ◎ **自分のために使える時間** 「ほとんど取れていない」と「取れない時が多い」を合計した「取れていない傾向」は 47.3%、「十分に取れている」と「おおむね取れている」を合計した「取れている傾向」は 23.3%となっている。
- ◎ **世帯の年間総収入等** 世帯の年間総収入をみると、「200～300 万円未満」(29.7%)が最も多く、次いで「300～500 万円未満」が 25.8%となっている。主な収入源をみると、「仕事による収入」が 87.1%と多数を占めている。
- ◎ **居住形態等** 「民間賃貸住宅」が 38.0%、「本人名義の持ち家」「親族名義の持ち家」を合わせて 37.9%、「市営・都営住宅」は 15.1%となっている。
- ◎ **住宅にかかる費用** 「2～5万円未満」が 21.1%と最も多く、次いで「5～8万円未満」が 20.8%、「8～11 万円未満」が 18.3%となっている。
- ◎ **経済的な理由により必要なものが買えなかった経験の有無** 食材を買えなかった人は「よくあった」「ときどきあった」を合わせると 23.7%、文具や教材を買えなかった人は、「よくあった」「ときどきあった」を合わせると 20.1%となっている。

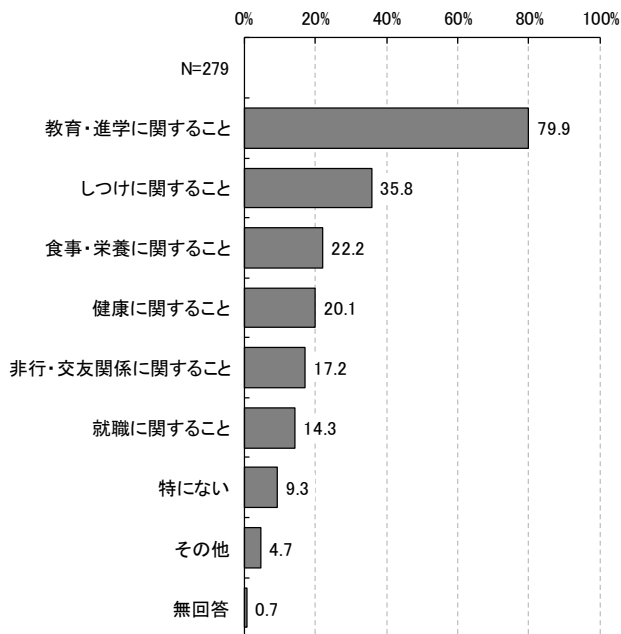
グラフ⑥ 【ひとり親になった時に困ったことと現在困っていること】



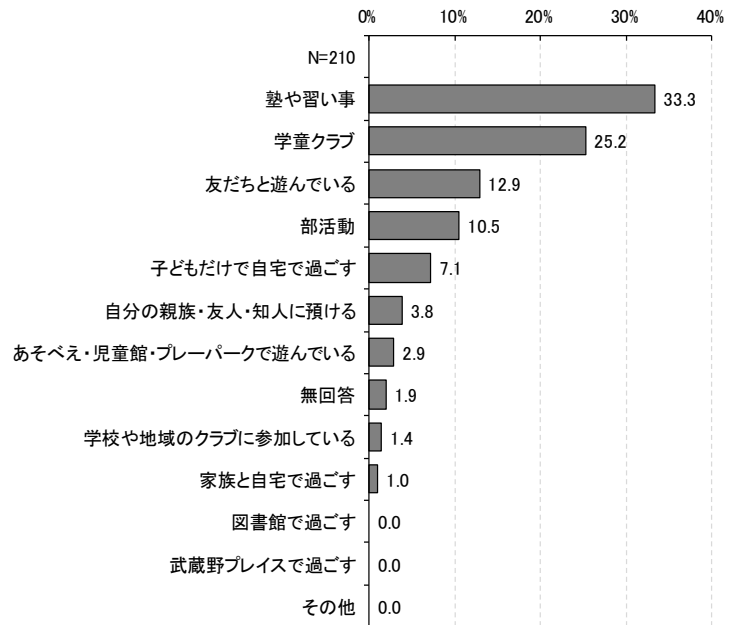
4 子育てについて

- ◎ 子どもについて心配していること 「教育・進学に関すること」が 79.9%と多数を占め、次いで「しつけに関すること」が 35.8%と多い。⇒グラフ⑦
- ◎ 子どもの最終学歴について 「大学」を希望する人が 66.7%と多数を占めている。
- ◎ 小中学生の放課後の過ごし方 「塾や習い事」(33.3%)、「学童クラブ」25.2%「友だちと遊んでいる」(12.9%)、の3つが上位にあげられている。⇒グラフ⑧
- ◎ 子どもの朝食・夕食 「両方食べている」が 65.2%、「夕ごはんは食べている」が 5.0%、「朝ごはんは食べている」が 1.4%となっている。
- ◎ 子どもとの関わり ⇒グラフ⑨

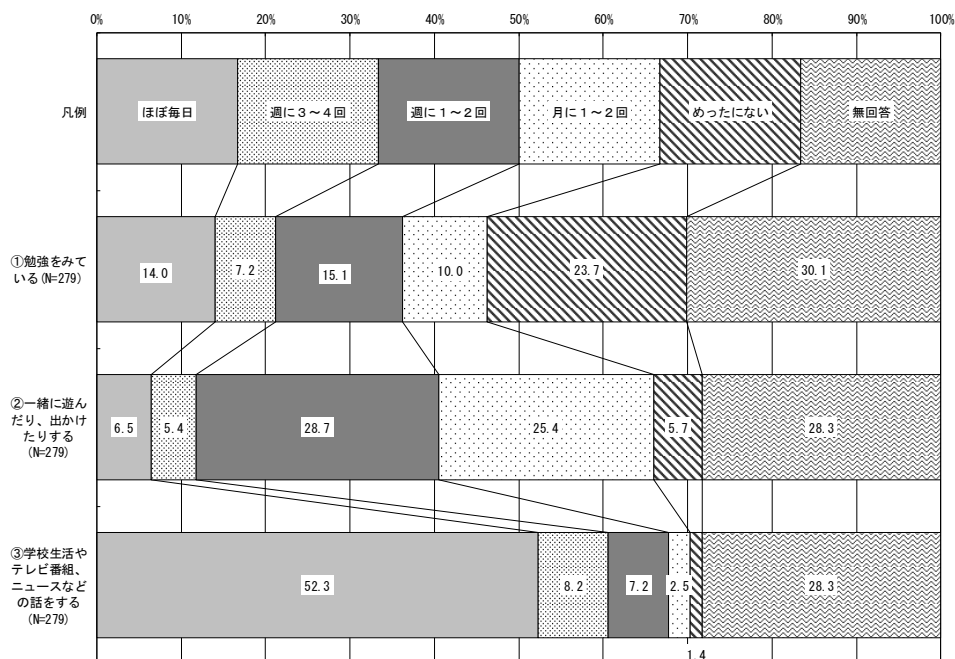
グラフ⑦【子どもについて心配していること】



グラフ⑧【小中学生の放課後の過ごし方】



グラフ⑨【子どもとの関わり】



5 養育費・面会交流について

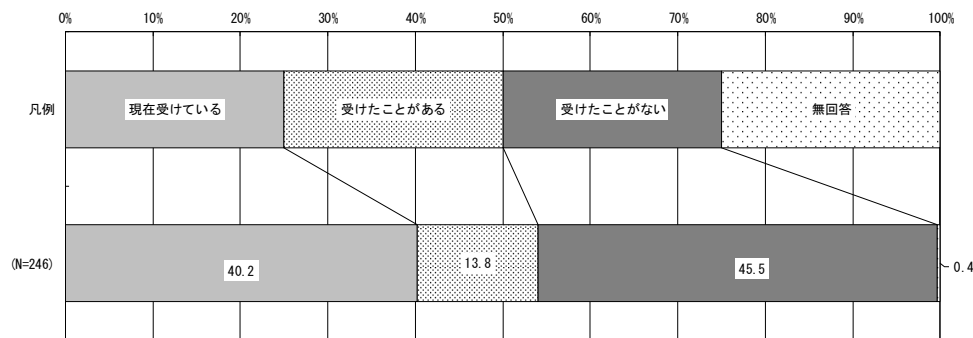
◎ 養育費の受給 「受けたことがない」が 45.5%と最も多い。⇒グラフ⑩

養育費を受給しない理由として、「相手に支払う能力がないと思ったから」が 14.6%と最も多く、次いで「相手と関わりたくないから」が 11.8%、「相手に支払う意思がないと思ったから」が 7.7%となっている。

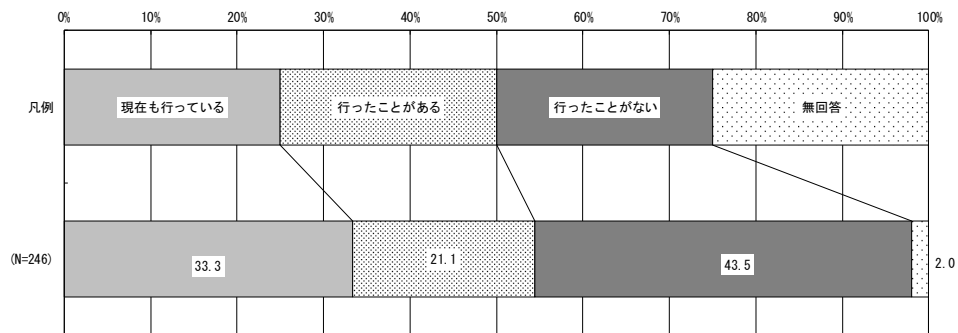
◎ 面会交流の有無 「行ったことがない」が 43.5%と最も多い。⇒グラフ⑪

「現在も行っている」が 33.3%、「行ったことがある」が 21.1%となっている。面会交流をしていない理由として、「相手と関わり合いたくないから」が 15.4%と最も多く、次いで「相手が面会交流を希望しないから」が 13.8%、「子どもが会いたがらないから」が 6.1%となっている。

グラフ⑩【養育費の受給】



グラフ⑪【面会交流の有無】

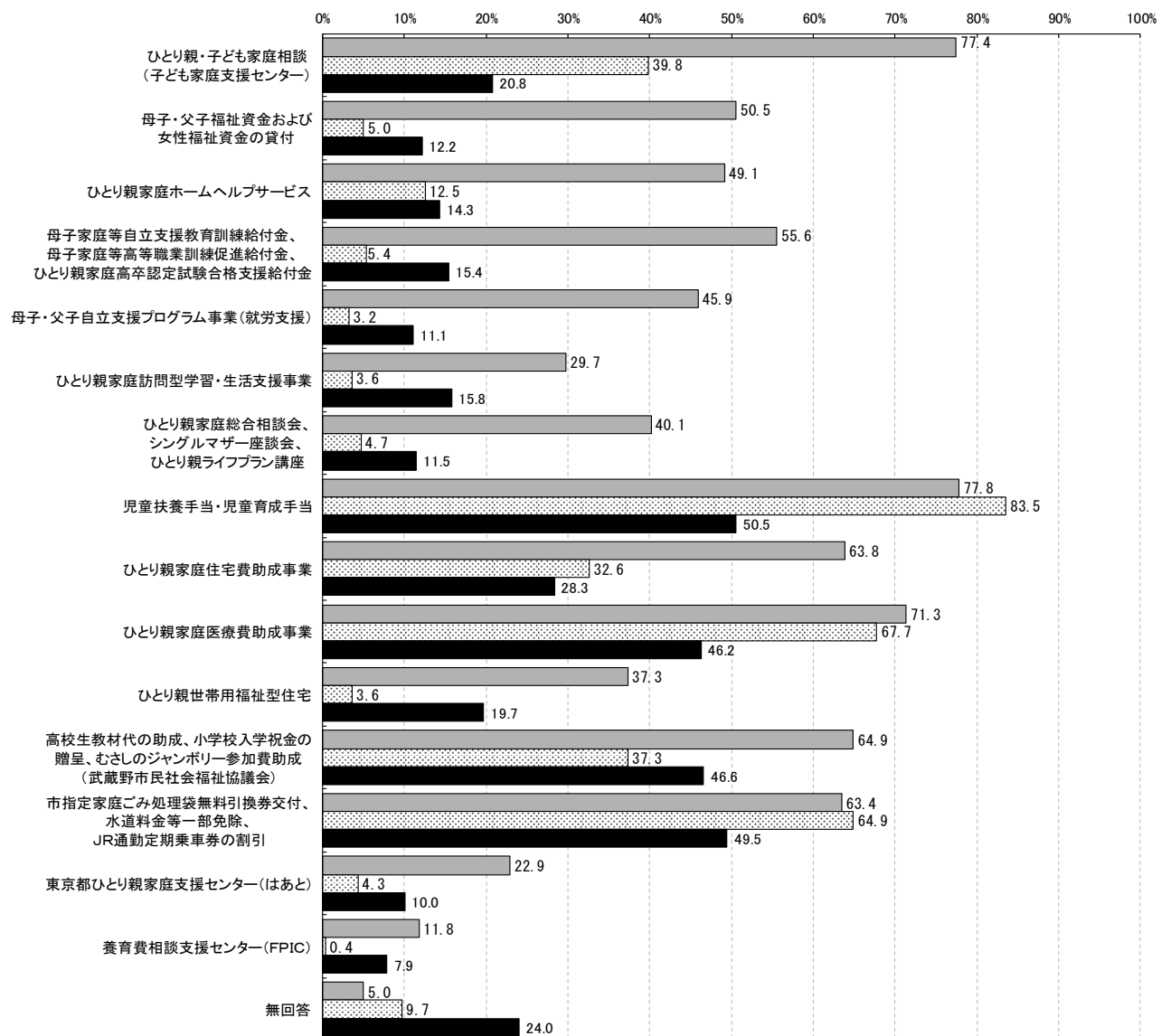


6

行政のサービス等について

- ◎ 行政のサービス・制度の認知・利用状況と今後の利用意向 「知っているサービス」「利用したことがあるサービス」「今後も引き続き利用したい、または新たに利用したいサービス」のいずれも「児童扶養手当・児童育成手当」が最も多い。⇒グラフ⑫
- ◎ ひとり親家庭に対する支援要望 上位から「経済的支援の充実」(72.4%)、「就労支援の充実」(31.2%)、「養育費確保支援の充実」(24.7%)となっている。

グラフ⑫【行政のサービス等について】



□ 知っているサービスや制度(N=279)

□ 利用したことがあるサービスや制度(N=279)

■ 今後も利用したいサービスや制度(N=279)

担当：子ども家庭部子ども家庭支援センター